



④発信する ⑤追究する ⑥粘り強く ⑦つながる ⑧思いや願いを実現しようとする ⑨課題解決する

子どもをどうサポートすればよいか ～私たち大人ができること～

校長 許斐 真也

子どもの成長を見ていると、月日が流れる速さを実感します。今年も最後の月、12月を迎えようとしています。寒さが一層厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

先月号の学校便りでお伝えしたように、10月以降、学校全体で、学年で、様々な行事を計画し、行っています。実施にあたりましては保護者の皆様にご理解、ご準備などいただいております。深く感謝申し上げます。また、コロナ禍が収束しつつある今年度、子どもの学びのために、沢山の地域の皆様にご協力をいただいております。この場を借りまして、重ねてお礼申し上げます。

さて、2年前の学校便りの中で、「人間は周りの人に期待されると、それに応えようと、成果をあげる傾向がある」とお伝えしたことがあります。これを「ピグマリオン効果」というそうです。大きな行事の後や新年度など、さまざまな節目の折に子どもは「これから～をがんばるぞ」という前向きな気持ちにあることが多いです。行事などの振り返りの中で「今回学んだことをこれからの学校生活の中で活かしていきたい」と考える子どもは少なくありません。そういう前向きな気持ちになっている時に、周りにいる大人の私たちが「期待すること」「前向きなきっかけをつくること」で、子どもの力を伸ばしていきたいです。

一般的に人は、何かを始めるとき時が難しいと言われます。例えば、次の言葉です。

「動き出そうとすると決意することが大変。そこに、一番力を必要とする」

「モチベーションを上げないと、取組がスタートできない」

「何か、よいきっかけがないと、始められない」

この3つのタイミングで待っていればよいのでしょうか、いつそのタイミングが来るかわからないことが多いので待ち続けることはできません。そんな時に「10分間だけやってみる作戦」はどうでしょうか。モチベーションが上がらないから取組まないのではなく、まず10分間だけやってみて、そこからモチベーションをあげていくという意識改革を試みたらどうでしょうか。

その際、子どもの周りにいる私たち大人は、言葉がけだけではなく、

「表情」「動作」「やわらかい視線」「明るい声」「テンポのよい話し方」など、いろいろ工夫していきたいものです。取組が始まって、結果が出てきたら、次の4つの評価をしていくとさらに効果が期待できると思います。

- ①取組をスタートした時の決意に対する評価
- ②努力している様子に対する評価
- ③出てきた結果に対する評価
- ④今後も続けるということに対する評価

よく言われる支援に「ほめること」があげられますが、内容、タイミングが合わない賞賛は効果が上がらない場合が多いです。（子どもは何を褒められているのかわからないのです）

各学年・クラスで「学びの報告会」に向けた取組が始まりつつあります。子どもの主体性を伸ばしていくためにも、折を見て声をかけていただけるとありがたいです。

どうぞ、よろしくお願いいたします。